

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス別府教室		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 20日		2026年 1月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	58	(回答者数) 39
○従業者評価実施期間	2026年 1月 19日		2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	精神保健福祉士や看護師など、多岐にわたる分野の専門職を配置しています。各職員の知見を結集し、運動や医療知識、創作活動など、得意分野を活かした多様な療育プログラムを実行しています。今後は、各児童に担当職員を定めることで、状況把握を密にし、個性を高めた支援のさらなる充実を図る計画です。	視覚的掲示による環境の構造化を行い、児童が自律的に行動できる空間を整えています。毎日の事前会議では、多職種がクラウド上のケア記録や面談内容を精査し、その日の具体的な役割分担や支援手順を細部まで共有しています。プログラムの固定化を防ぐため、毎日担当者を変えて各職員の専門性や強みを多角的に療育へ反映させるなど、日々の運営における工夫を徹底しています。	個性をより高めるため、各利用児童に担当職員を定める体制を構築します。担当職員が個々の療育状況を詳細に把握し、多職種チームで支援方法を検討することで、児童一人ひとりの特性に最適化されたプログラムの提供を強化します。専門的知見を個別支援に深く反映させ、支援の質の更なる向上を目指します。
2	病院や教育現場での勤務経験を持つ専門職が、保護者の不安や悩みに深く寄り添っています。医療機関への受診同行や学校との担当者会議への参加を通じ、顔の見える関係で具体的な療育提案を実践しています。今後は医療・教育機関との定期的な連携機会をさらに増やすことで、地域との支援体制をより強固にすることが期待されます。	クラウドシステムの機能を駆使し、保護者からの日常的な相談にタイムリーかつ丁寧に応答できる体制を構築しています。外部の担当者会議には、現場で児童に接する職員を積極的に同席させ、実態に即した精度の高い情報共有を図っています。また、医療機関や学校を直接訪問し、5領域の視点に基づいた具体的な療育方針の提案を行うことで、多機関連携の質を高める努力を続けています。	医療・教育機関との定期的な連携機会をさらに増やし、支援連携の質を向上させます。学校との定期協議の場を設けるなど、より計画的な情報共有体制を構築することで、地域全体での包括的なサポート体制を強固にします。顔の見える関係を活かし、専門的助言や具体的な療育提案を各機関へ還元する活動を広げます。
3	職員の専門知識や趣味を活かした保護者会やワークショップを実施しています。アロマ講習会や茶話会など、保護者が悩みを共有しリフレッシュできる場を継続的に提供しています。今後は、SSTやペアレントトレーニングなど、資格者による専門的な講習会と交流会を体系化し、家族支援を一層充実させていくことが期待されます。	アロマ講習等のワークショップと茶話会を同日開催し、保護者がリラックスした雰囲気の中で経験を語り合える場を戦略的に設けています。地域に開かれた事業所を目指し、夏祭りや秋祭り等の年間行事には外部からの参加も広く募っています。また、お申し入れや相談に対しては、個人ではなく「職員チーム」として迅速に解決へ取り組む体制を整え、組織的な安心感の提供に努めています。	資格者による専門的な講習会と、趣味・興味に沿った交流会を体系化して企画・実施します。SSTやペアレントトレーニング、障害への対応知識など、専門的裏付けのある多彩なプログラムを導入し、保護者のニーズに即した支援を強化します。家族が専門知識を得ながらリフレッシュできる場を定着させ、家族支援を拡充します。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事務業務が増加しており、療育時間を圧迫しないための迅速な処理と組織化が急務です。対策としてクラウドシステムによる電子化を進めていますが、今後はさらなるICT活用と組織体制の整備を推進することで、事務負担を軽減し療育の質を維持・向上させる基盤を構築します。	事務作業が、本来注力すべき療育プログラムの立案や実施時間を圧迫しないよう、迅速な処理が求められています。療育の質を維持しつつ事務を効率化するための、組織的な役割分担の明確化が急務となっています。	事務を迅速に処理するため、ICT活用による電子化を更に加速させます。単なる作業の効率化だけでなく、役割分担を明確にした組織体制を構築することで、療育の質を落とさずに会議や訓練を実効性のある内容へと深化させます。事務負担の軽減により、子供と向き合う時間を最大化する組織運営を徹底します。
2	児童が地域の一員として社会活動に加わる機会をさらに検討し、拡充していくことが課題です。現在は有志による一般向けワークショップ等を行っていますが、今後は広報活動を工夫して地域イベントへの参加を積極的に推進します。地域住民との交流を深め、より地域に開かれた事業所としての役割を強化していく計画です。	現在は有志職員による小規模なワークショップや限定的な情報発信が中心であり、地域全体を巻き込む組織的な活動がまだ発展途上であることが要因です。また、交流イベントの参加者が固定化されやすく、広報のリーチが限定的である点も課題です。児童が地域の一員として社会活動に深く関わるためには、既存の枠を超えた戦略的な広報と機会創出が必要とされています。	有志による活動から一歩踏み出し、広報手段を工夫することで一般参加型のワークショップを地域へ定着させることを目指します。地域の行事やイベント情報を能動的に収集し、参加を戦略的に推進することで、児童が社会との繋がりを実感できる機会を創出します。家族が地域で楽しめる情報の提供も強化し、多角的な視点から地域交流の質を高める工夫を続けます。
3	職員研修が不定期なため、年間を通じた安定的・体系的な実施と資質向上のための計画策定が求められています。また、職員間の終業時刻の差により全体での振り返りが困難な場面があるため、クラウドシステムを活用した業務報告の周知を徹底します。情報共有を確実にし、チームとしての支援力を高める仕組み作りを進めます。	専門職による研修は実施されていますが、年間を通じた安定的・体系的な教育計画が未策定であることが、開催の不定期化を招く要因となっています。また、職員ごとの勤務シフトや終業時刻の違いにより、全員が揃って対面でその日の支援を振り返る時間の確保が物理的に困難な状況があります。この時間的制約が、情報の漏れを防ぐための確実な周知体制の構築を阻む一因です。	不定期だった研修を、職員の希望を反映した年間計画に基づく安定的な実施へと改善します。各専門職の知見や過去のプログラムをアーカイブ化し、誰もがナレッジを再利用できるシステムを構築します。また、クラウドでの業務報告を質・量ともに点検する体制を整え、情報の周知徹底と業務の可視化により、チーム一丸となった支援体制の維持を図ります。